

○内閣官房長官 ただいまから、第1回「社会保障国民会議」を開催いたします。

このたび、本会議の司会を務めます、官房長官の木原稔です。よろしく願いいたします。

まず、お手元の資料1を御覧ください。政府と各党とで合意させていただいた本会議の趣旨や構成、また、議論の進め方等について記載させていただいております。

次に、資料2を御覧ください。本日の出席者は記載のとおりとなっております。

それでは、社会保障と税の一体改革に向けて、各政党から御発言をいただきたいと存じます。

まず、日本維新の会の藤田共同代表、お願いいたします。

○日本維新の会共同代表 御発言の機会をいただきありがとうございます。日本維新の会の藤田文武でございます。今日は皆さん、ありがとうございます。

社会保障国民会議につきましては、この趣旨に書かれていますとおり、給付付き税額控除、そして消費税についてしっかりと衆知を集めて国民の皆さんのためになる制度設計ができるよう、私たちもしっかりと誠心誠意アイデアを出し、そして意思決定に参加をしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

この2点については我が党と、それから自由民主党さんも公約で掲げ、そして国民の信任を一定得たというところではありますが、課題は様々各論ございます。その辺りを、野党の皆さん今日参加されていない党もいらっしゃるが、一定同じく方向性を訴えられた政党もありますから、そういった意味でいろいろな政党の御意見、そして有識者の皆さんからも御意見に耳を傾けて鋭意努力したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

また、この議論の経過が、国民会議ですから、国民の皆さんに論点がしっかりと伝わるような形で発信ができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

○内閣官房長官 ありがとうございます。

続いて、チームみらいの安野代表、お願いいたします。

○チームみらい党首 発言の機会をいただきましてありがとうございます。チームみらいの安野貴博でございます。皆様、よろしくお願いいたします。

初めに、我々としての現状認識をお話させていただければと思います。今、少子高齢化や技術の飛躍的な進化の中で、今の時代に合わせた社会保障制度の在り方について真剣に考えるべき時期だと我々も考えております。そんな中で給付と負担の両面でどのように納得感があって、そして持続可能な制度にするかということを議論していくべきだとチームみらいも考えておまして、そういった中でより良い案をつくるために我々ができる部分、しっかりと貢献をしてまいりたいと考えております。

次に、論点となります消費税と給付付き税額控除について、我々の考え方を簡単にお話しさせていただきます。

まず1つ目が、消費税についてです。消費税につきましては、我々は今のタイミングにおいて食料品の税率を下げるということについては反対の立場でございます。むしろその財源があるのであれば、働いている方の大きな負担となっております社会保険料の負担、こちらに優先的にメスを入れていくべきであると考えております。こちらは昨日の代表質問でもございましたが、働いている人たちに対する支援が重要だという点に関しては高市総理からも御答弁いただきまして、そこに関しては一致しているものだと認識しております。

また、この食料品の税率を暫定で下げるという方向性ですが、これは様々な事業者の方々も含めて経済社会に大きな混乱をもたらす可能性があると考えております。分かりやすいところで申し上げますと外食産業に関するものですね。内食と外食の価格差がより大きくなるので、そちらに対する手当てというのが必要であると考えますし、このままやると混乱が生じかねないと懸念をしております。

2つ目が、給付付き税額控除に関してです。こちらは効率的な支援ができ得る制度だと考えておまして、この制度設計において現時点で我々が4つ大切にしたい、考えるべきだと思うことがございます。

まず1つ目が、この制度設計において壁や崖というものがなくて滑らかであることが重要ではないかと考えます。昨年も103万円の壁のような話がありましたが、特定の閾値を超えると急に価格が大きく変わってくるという制度だと、その周辺でインセンティブ構造がゆがんでまいりますので、働き控えであるとか、ほかの様々な問題ということにつながりかねないと考えます。なので、そういった崖や壁というものを可能な限り排した設計をしていくべきではないかと考えます。

2つ目が、世の中の変化のスピードに素早く対応できるようにするために、103万円であるとか、そういった数値を書き込むのではなくて、ある考え方に基づいて、例えば所得控除のケースで言うと最低賃金であるとか、あるいはCPIであるとか、そういったものと連動するような仕組みを取り入れていくことによって、ある種ビルトインスタビライザーのような形で世の中の変化が激しかったとしても一定それに対応できるよという仕組みを内包すべきかと考えます。チームみらいは、昨日の代表質問でも申し上げましたが、今後、例えばAIのような技術が発展していくことによって労働市場は大きく変わり得ると考えております。そういった大きな変化が来たとしても一定対応できるような制度というのを考えていくべきだと考えます。

3つ目が、これは税制の話よりもう少しスコープを広げたほうがいいのではないかと考えています。それは税制の法律の話だけではなくて、データやソフトウェアやシステム、これをどのように設計して、それと一体となって税制が設計されないと本来の趣旨を最大限発揮できないかもしれないですし、テクノロジーの今できることが増えている中で今の

時代の最適な税制というものにならないのではないか、給付の制度にならないのではないかと考えておりますので、制度だけではなくてデータやソフトウェア、システムといったところも一体として設計をしていくべきだと思います。そして、国民の方の体験というところ、これはIT業界ではユーザーエクスペリエンスといたりもしますが、税制においてもこういったユーザーエクスペリエンスの観点というのは考えていくべきなのではないかと思えます。

そして最後に4つ目が、早期の段階的導入の筋を探るべきだと考えております。もし仮に思ったよりも早期にできるような方法があるのであれば、様々な懸念が出ている消費税減税をつなぎでやるよりも、段階的な早めにできる給付付き税額控除なのか、あるいはこれは所得連動型給付のほうが早くできるという可能性もあると思えますが、そういった筋というものは積極的にこの会議でも探していくべきなのではないかと考えます。

というところで、我々が消費税と給付付き税額控除について大きくこういう方針で考えているというところについて簡単に触れさせていただきました。

最後に、議論の進め方として、これは藤田代表からもございましたけれども、オープンにやるということを提案させていただきます。現状、野党のほかの党も、あるいはメディアを通じて国民の方からも、このクローズドな現場で全てが決まってしまうのではないかという懸念が出ていると承知しております、可能な限りこの会議体をオープンでやっていくことは、我々のみならず与党の方、政府の方にとってもプラスがあるものだと考えますので、ぜひ検討いただければと思います。

以上です。ありがとうございます。

○内閣官房長官 ありがとうございます。

それでは、最後に高市総理から御発言をいただきます。

○内閣総理大臣 今日は皆様、お疲れの時間ですので、ありがとうございます。

近年は人口減少の本格化、それから少子高齢化の進行ということに加えて、物価上昇という新たな社会経済局面を迎えております。その中で、給付と負担の在り方などについて、全世代を通じて納得感が得られる、社会保障の構築に向けた国民的な議論を進める必要がございます。

特に税、社会保険料負担、それから物価高に苦しむ中所得者、低所得者の方々の負担を緩和したいと考えています。

給付付き税額控除の制度設計を含めた社会保障と税の一体改革、これはもう本丸として議論を進める必要がございますが、その制度導入までの間のつなぎとして、安野さんの御意見もありましたけれども、現在の与党の方では、現在軽減税率が適用されている飲食料品について、特例公債に頼ることなく、2年間限定で消費税をゼロ税率とすることについて、スケジュール・財源の在り方を検討する必要があると考えています。

お声がけした時にお話をしたんですが、例えばこれからの物価動向ですとか、例えば感染症が急に蔓延して大変なことになったというような時に、もう少し柔軟にですね、消費

税率、消費税に限りませんが、特に消費税率など変更する可能性がある。でも、そのときにシステムが追いつかないとか、そういうんじゃないんですから、早めですね、柔軟なシステム、スマレジなども柔軟にしておくのも一つじゃないかな、正にテクノロジーの面からの御提案も期待をしたいと思っております。

それから、この社会保障国民会議ですけれども、こうした課題について、消費税が社会保障の貴重な財源であるという認識をまず共有している皆様、それから給付付き税額控除の実現に取り組む皆様、そういった皆様が共同で開催して、国民の多くの方々にも見える形で丁寧に、それでもスピード感を持ってやれるところはスピード感を持って進めていきたいなと思っております。

本日おいでにならなかった党の方にも小林政調会長に随分お世話をかけましたけれども、引き続き、参加を呼び掛けてまいります。

今後、皆様の御協力をいただきながら、まずは夏前には中間取りまとめを行いまして、もし税についてそこで結論を得ることができましたら、できるだけ早期に必要な法案の国会提出を目指したいと思っております。

特に与野党の垣根を越えて、実務者、有識者の皆様の叡智（えいち）も集めて議論を行って、これ長いこと放置されてきた問題ですよね。私も若いころからこれは必要だ、給付と負担、これは必要だと思いながらここに至りましたので、思い切ってやりましょう。よろしく願いいたします。

○内閣官房長官 ありがとうございます。

それでは、予定していた議事は本日は以上となります。

では、以上をもちまして、第1回の「社会保障国民会議」を終了いたします。御参加ありがとうございます。